| 学校番号 | 1207 |
|---|---|

# 令和　５　年度　　指導と評価の年間計画

| 教科 | 科目（講座名） | 単位数 | 指導学年 | 履修の条件 |
|---|---|---|---|---|
| 数　学 | 数学Ⅱ（　数学Ⅱβ　） | ２ | ３ | 数学Ⅰ履修後 |

| 使用教科書 | 副読本等 |
|---|---|
| 「新　高校の数学Ⅱ」（数研出版） | 「新高校の数学対応　教科書学習ノート数学Ⅱ」（数研出版） |

| 準備物・費用等 | 必修／選択 | 全員履修 | セット | 自由選択 | 授業形態 | 講義 | 実技 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 必要があればその都度連絡します | | | ○ | | | ○ | | |

## １．担当者からのメッセージ（学習方法等）

生徒の学習に応じて教科書の内容を精選し、講義と問題演習を反復しながら基礎学力の充実を図る。また、補助プリントなどを適宜作成し、理解を深めるとともに、計算力の向上を目指す。

## ２．学習の到達目標

式と証明、高次方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数、対数関数、微分法、積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。

## ３．学習評価（評価規準と評価方法）

| 観点 | ａ：関心・意欲・態度 | ｂ：数学的な見方や考え方 | ｃ：数学的な技能 | ｄ：知識・理解 |
|---|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。 | 事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 | 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。 | 数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。 |
| 評価方法 | 授業に対する態度や提出物の状況によって評価する。 | 提出物に関して、毎回の授業で集めチェックしている。 | 定期考査を通し判断する。また授業に復習の計算を入れることでも評価する。 | 毎回の授業で集める提出物<br>定期考査 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

| 月 | 単元（題材） | 学習内容 | 主な評価の観点 | | | | 単元（題材）の評価規準 | 評価方法 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | a | b | c | d | | |
| 4月<br>～<br>5月<br>中旬 | 指数関数 | 指数法則<br><br>累乗根 | ○ | <br><br>○ | ○<br><br>○ | ○<br><br>○ | a,指数法則に興味を持ち、意欲的に探求しようとする。<br>b,累乗根の意味を理解し、簡単な計算が出来る。<br>c,様々な指数関数の四則計算ができる。<br>d,指数が０の場合や負の数の場合などについてもりかいしている。 | 定期考査<br>提出物<br>授業態度<br>出席状況 |
| 5月<br>下旬<br>～<br>7月 | 指数関数 | 指数の拡張<br><br>指数関数とそのグラフ | <br><br>○ | ○<br><br> | <br><br>○ | ○<br><br>○ | a,指数関数のグラフの特徴と性質に興味ち意欲的に探求しようとする。<br>b,指数を整数に拡張しても指数法則が成り立つことを理解する。<br>c,指数関数のグラフを利用して、方程式や不等式を解くことができる。<br>d,指数を整数から有理数に拡張し、指数に関する理解を深める。 | 定期考査<br>提出物<br>授業態度<br>出席状況 |
| 8月<br>下旬<br>～<br>10月<br>上旬 | 対数関数 | 対数関数とその性質 | ○ | ○ | ○ | ○ | a,対数関数に興味を持ち、意欲的に探求しようとする。<br>b,指数関数から対数関数を求めることが出来る。<br>c,対数関数の計算が出来る。<br>d,対数関数の性質とそのグラフの特徴と性質を理解する。 | 定期考査<br>提出物<br>授業態度<br>出席状況 |
| 10月<br>中旬<br>～<br>12月 | 対数関数<br><br>微分法 | 対数関数<br><br>微分係数と導関数 | ○ | ○ | <br>○ | ○ | a,対数関数に興味を持ち、意欲的に探求しようとする。<br>b,自然数の桁数を求めたり、変化する数量について見極めることが出来る。<br>c,関数の平均変化率の極限としてとらえ、導関数を定義することが出来る。<br>d、常用対数についての理解を深めている。 | 定期考査<br>提出物<br>授業態度<br>出席状況 |
| 1月<br>～<br>2月 | 微分法 | 微分係数と導関数<br><br>導関数の応用 | ○<br><br>○ | ○<br><br>○ | ○<br><br>○ | <br><br>○ | a,微分法に興味をもち、意欲的に理解しようとする。<br>b,微分係数を関数的にとらえ、導関数を定義することが出来る。<br>c,グラフの接線の方程式を求めることができる。<br>d,接線の傾きと関連させて、関数の増減を理解できる。 | 定期考査<br>提出物<br>授業態度<br>出席状況 |